

グループホーム イコロの里

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	理念である「愛のある里・笑顔の絶えない里・安らぎのある里」をかかげ、その方の意見・意思を尊重しグループホームらしいサービスを提供している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	毎日朝礼にて理念の復唱を行い職員と理念を共有できるようにしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	運営推進会議に地域住民やご家族様に多数参加して頂き、事業所の方針を理解して頂いている。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	挨拶はもちろんのこと近隣の子ども達がホームに来たり、事業所での行事ごとは近所に呼びかけたりしている。近くのお店には入居者様に付き添い、毎日買い物と一緒に行き顔なじみの関係を築いている。		まだ一部の方々なので、もっとたくさんの方々と交流できるようにしたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	入居者様と地域の方々との食事会・バーベキュー・廃品回収・事業所の夏祭りなど交流を図っている。又、子供たちとの交流・小学生を招いたり入居者様の笑顔につながっている。		バーベキューや夏祭りなどチラシを配り参加をつのっているが中々参加して頂けてないのが現状である。今後はチラシを配るだけでなく、口頭などでも地域の方々々に伝えて参加して頂けるようにしたい。

グループホーム イコロの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在行えていない。		民生委員などと話し合い、地域貢献できることはないか考えていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を行い、管理者・リーダー職でまとめスタッフミーティングの場を設けて改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月に1回開催し、行政・地域代表・入居者様ご家族が参加している。現在の利用状況・活動報告・ヒヤリハット・事例などを話し合い地域住民からの要望・意見を交わし、サービスの向上に活かしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	会議参加・アドバイスに加えて、入居者様との食事会や大きな行事ごとにも市町村に声をかけ行き来する機会をつくるように取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は研修などで学ぶ機会があるが、職員に対しての内部研修の充実ができていない。		管理者だけでなく職員にも理解を深めてもらう為、内部研修を設けて話し合う機会をつくっていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は虐待に関する市役所での研修に参加し、職員に広めている。又、虐待行為等の資料をもとに十分注意を払い防止に努めている。		

グループホーム イコロの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は全てを分かりやすく文章・口頭で伝え、十分理解して頂き納得の上、不安がないようにしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者様がいつでも不満や困っていることが言えるような関係を築き、個別にも対応している。又、ご意見箱を設置し苦情ノートも作成し、他職員にも共有できるようにしている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>暮らしぶりや健康状態は面会時には必ず行っている。遠方の方や仕事の都合でなかなか来訪できない方には、手紙をだしたりノートを活用し担当職員が柔軟な対応を行っている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族来訪時に話しを伺い、苦情表で職員と解決に向けて取り組んでいる。又、表面だと言って言えないことも相談にのっている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>前回の反省から職員全体のミーティングの頻度を月1回と増やし職員の意見を反映している。又、定期的に個人面談も行っている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者様に影響しないように必要な日・時間を見極め臨機応変に動いている。又、職員の要望も早めに聞き対応している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>極力、離職者がでないような環境づくりを行っている。職員の異動などによる影響はいなめない部分もあるので、代わる場合は引き継ぎを徹底しダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		

グループホーム イコロの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の募集・採用は全て問わず、グループホームでの意欲・やる気を最重視している。例えば料理が全くでなくても入居者に教えてもらうなど、そこで相互の共感や喜びにもつながっている。又、無理のない勤務にするように配慮している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>就業時には必ず人権の尊重に対する考えを説明している。又、スタッフミーティングなどで入居者様への言葉使いなど日々の関わり方の見直しも行っている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修や事業所内での勉強会など計画を立て、レベルアップにつながるように実地し報告書にて職員全員に共有している。隣接する同グループの特定施設への研修も行い、介護に対する知識・技術を身につけてもらう取り組みを行っている。</p>		外部研修の数をもっと増やしていきたい。
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他事業所の運営推進会議に参加したり、イコロの里の運営推進会議や食事会に参加していただいたり意見交換を行っている。お互いに向上できるように努力している。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>定期的に面談を行い、不安や要望など言いやすい環境を整備している。</p>		

グループホーム イコロの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	事業所運営者が運営状況(収支等)を各職員へ面談時に説明し、職員主体で運営しているという意識づけを行っている。又、定期昇格を行うことで向上心の持続に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用までの時間・話しをよく聞きとり、その方が望んでいること・困っていること・家族の要望など受け止め安心して入居できるように努力している。又、入居約1か月のケアプランに必ず「馴染みの関係づくり」をあげている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族のおかれている状況などを把握し、聞き取り調査など要望に応じ自宅訪問も行っている。又、家族の要望も聞きとり不安が軽減されるように努力している。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学の際その方に必要なサービスを見極め、他のサービス利用も考えながら、その方に1番良いと思われる支援ができるようにしている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気、徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅で生活していたころと極力変わらないように家族と相談し徐々に馴染んでいただくようにしている。利用サービス開始前の訪問・見学・他のコミュニケーションを取り、不安から安心へとできるように工夫している。又、希望者には体験入居も出来るようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であるということのを忘れずに、入居者様の得意なこと興味のあることは一緒になって楽しみ、学びながら過ごせるような関係づくりを築いている。		

グループホーム イコロの里

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時には本人のことを話し合いその方に合った介護環境が作れるようにお互いに協力し合っている。又、HP受診や外出支援など全てこちらで行なうのではなく家族に声掛けし協力を得ている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前に本人様とご家族様の今までの関係や生活環境を聞き取りこれまでと変わらない関係が築いていけるように支援します。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に知人や友人がグループホームに足を運んだり、家族の力をかりながら馴染みの場所へ行ける様に支援している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様同士が家事、掃除等を共同作業することにより良い関係が築いていけるように支援している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去され他の事業所に移られた方もいる。その方の面会へ行き、どのように過ごされているかなどのお付き合いをしている。		退去後の本人、ご家族様等に、イコロの里での大きなイベントなどの案内をしていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に生活暦や暮らし方の希望を聞き取り入居後は利用者なんでも帳などを活用しよりよく暮らせるように努めている。		入居されて一年半たち暮らし方や意向などをスタッフ側で決め付けすぎている部分はないかどうかを見直していきたい

グループホーム イコロの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面接でその方の生活歴・環境を把握し会話の中で取り入れたり、レクリエーションで得意な面を活かしてもらったりしている。家族にも協力を得て、そういった環境を提供している。また入居後にも本人から聞いた今までの生活歴があれば職員で情報を共有し今までの生活が継続できるように努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	バイタルサイン・排便・尿・水分など、その方の心身状態・変化を見逃さず生活リズムを把握し、記録も含めよい暮らしができるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に聞いた本人の思い込みなどを基本とし、家族の思いや担当の思いを組み入れ計画を作成している。ただ意志をしっかりと伝えられる入居者ばかりではない為、充分ではない。また、本人の思いを探る為に「できること、できないこと」という用紙に担当者が記入している。定期的に記入方法、スタッフへの理解を深める勉強会をもうけている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に三ヶ月ごとの見直しを行なっている。担当者と良く話し合い介護計画の見直しを行なう。また担当医に照会状の記入をお願いし医療面についてのアドバイスを頂いている。またサービス評価表も付け加える。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者には、毎月のモニタリング用紙で、気づいた点や工夫したい点など記入してもらい介護計画の見直しに活かしている。また、困難な事例に関しては、スタッフ全員が目を通す伝達長に意見をもとめ改善策やケアの工夫について検討している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診・併設するデイサービスとの交流・遠方に家族が居る為外食や外出がなかなかできない方への付き添いなど支援している。		本人が「～に行きたい」と訴えてもスタッフ状況などでなかなか達成できない場面もみられる。今後は柔軟な対応をしていきたい。

グループホーム イコロの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	区長・民生委員のもと、地域行事の参加・ボランティア小学生との交流など協力を得ながらより良い暮らしにつなげている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護用品が必要な際はサービス事業所と連絡相談を行い、入居者様に一番良い物を取り入れている。また訪問マッサージなども活用している。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	二ヶ月に一回の運営推進会議には参加しているが、協働不足である。		必要性があれば今後はもう少し地域包括センターと協働していきたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様、家族には入居前に協力医療機関と面談していただき、最適な医療が受けられるように希望を尊重している。また月2回の往診・24時間の連絡体制をとっている。歯科についても毎週歯科往診があり、その他のかかりつけ医についてはスタッフが付き添って受診している。		家族とかかりつけ医がしっかりと話す機会が少ない為、往診時などに家族に訪問していただき話し合う機会を作りたい。
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	まずかかりつけ医に相談をし、認知症専門医あてに、紹介状を書いていただき受診し、診断や治療を受けられるよう支援している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	入居者様を良く知る協力期間の看護師に困った時、迷った時は常に相談している。また隣接する同グループの特定施設の看護師にも協力を得て相談している。		

グループホーム イコロの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院中は定期的に面会し担当医師・担当看護師と相談している。またその都度他のスタッフにも伝達し状況を報告している。退院する際は身体機能の変化があればそれに対応できる環境をまえておく。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合は本人、ご家族様、かかりつけ医と相談し今後の本人やご家族様の意向どう対応するか、かかりつけ医と話し合い早い段階から準備している。</p>		<p>看取りをしていきたいが、かかりつけ医の承諾をまだ得てない為、今後も話し合っていきたい。</p>
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>看取りの体制はかかりつけ医と相談中である。重度化することも考え、風呂場に手すりの設置を行なった。</p>		<p>見取りをしていきたいが、かかりつけ医の承諾をまだ得てない為、今後も話し合っていきたい。</p>
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>他の施設へ移られる際、入居中の生活はもちろんのこと入居前の生活についてもしっかりと情報を伝え本人様らしく生活して頂ける様に支援している。また入居中の支援を継続していただく為ケアプランの提供も行なっている。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉遣いや入居者対応に関しては、常に「目上の方である・人生の先輩である」ということを頭にいれ指導している。また記録に関してはステーション以外の持ち出しは厳禁としている。また個人記録で他の入居者様のことはイニシャルを使い個人情報を徹底している。</p>		

グループホーム イコロの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	希望を極力聞き、自己決定ができるようにしている。例えば就寝時間はその日により、早かったり遅かったりと本人様の希望により支援する。本人様の希望を聞きご家族様との外出が出来る様に取り組んでいる。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ側の決まりごとを最小限にし、入居者のペースに合わせた支援を行なっている。例えば部屋で過ごすか過ごさないかなど本人の意思を尊重している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容はほとんどの方が訪問理美容を利用されているが希望がある方は、別のところにいけるようにしている。理容師の方にも本人の意向にそって行なってもらっている。外出時や行事のときは一人ひとりその方らしい身だしなみができるように支援している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その時の状況や入居者の状況に応じて料理のつぎわけ、配膳の手伝いをしていただいている。本人もなにかできることがないか等意欲的である。畑で採取できる季節物、野菜を料理の中に組み入れている。		入居者様が食事の準備に関わる機会をもっともっと増やしていきたい。食べたり料理やおやつをききとり料理に組み込んでいきたい。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好きな物好きなことを、本人の希望時に楽しめるよう支援している。しかし、その方の心身状態や状況にあわせ配慮している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を記入しその方の排泄パターンを把握したり動作などで尿意便意を理解し、排泄の失敗が減らせるように努めている。		一人ひとりの入居者様にとってどういった介助方法が最適であるかを全スタッフが理解し、統一した介助ができるようにしたい。

グループホーム イコロの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	昔からの生活リズムを変えない様に曜日や時間帯は決めずに、その方の好みや生活習慣を大切に支援している。入浴剤を変えたりして入浴を楽しんでいただいている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりにあった就床時間を把握し、リズムを壊さないようにしている。夜間不眠にて昼夜逆転になっている。入居者には主治医との連携で指示をいただき、その方に応じた対応をし安心して休息安眠されるよう支援している。日中では散歩やレクを通し運動をして支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとり得意不得意な面があるのでその方にあった家事やレクを通して力を活かし協力を得ている。洗濯物、料理、掃除毎日の買い物など役割をもって張り合いや喜び気晴らしに繋がるよう支援している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持できるかたには極力自立の為、所持していただき使って頂けるようにしている。また残金を常に確認して本人が混乱しないようにしている。全スタッフが把握できるようにこずかい帳にレシートを貼り、管理している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の日課となっている買い物ゴミ捨て、散歩を一緒に付き添い支援している。一人で外出される時は満足して頂ける様に一緒に付き添いスタッフとの連携を細めにとるような体制で支援している。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事もその一つで団体行動も楽しめるのですが、一人ひとりの希望を聞き、行きたいところ食べたい物をたずね、ご家族様と担当者と一緒に出かけたり、ご家族様と本人で映画にいかれたりラーメンを食べたりしている。		

グループホーム イコロの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・暑中見舞いなど季節の変わり目に合わせて定期的に手紙のやりとりを行っている。又、自分で文字が書ける方には極力書いていただき、文字が書けない方もその方に合わせた貼り絵・似顔絵・写真など一人一人の個性を活かしている。ご家族様が遠方の方は手紙だけでなく電話のやり取りも支援できている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者が気軽に楽しく訪問できるように各部屋だけでなく和室も個室になるように工夫している。又、職員も気持ちの良い挨拶に心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベットの位置一つでも身体拘束になることなど職員に指導し理解している。又、資料についても職員がいつでも観覧できるようにしている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけないケアを理解しており、夜間以外は自由に外出できるように支援している。どんな理由であっても鍵をかけるのではなく、外に行きたいのであれば職員が付き添い外出するなどケアの実践を行っている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人一人を尊重しプライバシーを配慮しながら、日中は基本的にリビングに職員一人が残り見守りしている。又、帰宅願望のある方には常に安全確認・15分おきの所在確認表を作成している。夜勤帯は常にこまめな巡視を行っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	紛失の可能性のある貴重品については原則として持ち込みは禁止している。携帯電話や部屋の鍵など持っている方もおられるので、なくさないように日々確認を行っている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	大きな事故を防ぐため、どんな小さなことでもヒヤリハットとして報告しリスク係を中心に防止策に取り組んでおり、職員が共通の認識ができるように努めている。救急救命講習や消防訓練も実地している。		

グループホーム イコロの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署が行う救急救命講習、事業所が行う救急救命の研修に定期的に参加している。又、急変時対応表を作成しいつでも見れる状況にしている。そして、月1回のスタッフミーティングで緊急時・事故発生時を想定し実際に119番対応・応急手当の対応を行い備えている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと避難訓練を行っている。入居者様にも避難訓練に参加していただき避難経路・避難方法の確認を行っている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	事故が発生した際は必ずご家族様に連絡している。ヒヤリハットが発生した際は面会時など日々の状態を伝える時に報告している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルサイン・排泄・水分・睡眠など個人記録に記入し職員に伝達している。異変時は医師相談のもと、指示を受け対応に心がけている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導のもと薬剤師から協力していただいている。用法等についても、常に薬剤師からアドバイスをいただきながら服薬管理に努めている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	適度な散歩・運動にて予防を行い水分補給は常に心がけている。便秘の方に対しては、牛乳などの提供や腹部マッサージを行っている。又、医師に相談し薬を調整してもらったり下剤を処方していただいている。		

グループホーム イコロの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを行い義歯の方は週2回のポリドントを使用している。又、週1回の歯科医師の往診があり相談・診察を行っている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立をベースに一人一人の病状・状態に合わせ医師や薬剤師と相談し食事に楽しみがもてるように支援している。体重の増減の方には分量など考え、栄養バランスがとれるように支援している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	訪問者においては入口での手の消毒、マスク使用の呼びかけ、また廊下の手すりはハイター消毒を行っており、外出から帰って来られた時、うがい・手洗いに努めている。又インフルエンザの予防接種は、職員・入居者様共に年一回は実施している。入居者様の希望があれば、2回目の予防接種も実施している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	野菜、果物、肉のまな板の使用区別、又それらの調理器具のハイター消毒・熱湯洗浄・日光消毒を行っている。手拭きタオル、台拭き等の区別、食材の管理、食器類の熱処理、乾燥を怠らずに努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にはテーブルと椅子を置き、ちょっとしたテラスのようなスペースを設けている。花を植えたり観葉植物をおいたり心地よい空間を提供している。		近隣の方が気軽に入ってくるという所までは出来ていない。今後もアプローチを続けていきたい。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は部屋番号や名札はつけずBOXを設けて、そこに思い出の品を入れて頂くことで部屋の認識を促している。玄関側には催し物の写真の展示、季節の花壇を作り、生活感や季節感を取り入れている。又夏場は簾などを使用し配慮している。		

グループホーム イコロの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の居室は全て個室としている。また、ダイニングと和室を設け、それぞれ好きな空間で過ごして頂いている。お互いの部屋で会話を楽しまれる事もある。又廊下の隅に椅子を置き外を眺められるような空間も作っている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と相談し、馴染みある家具や寝具を持ち込んでもらい、心地よく過ごせる様に配慮している。他にもテレビやカーペット、仏壇も本人が使いやすいように、使い馴染んだものを使用してもらっている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に換気に努め、就寝時などには入居者様の意向に沿いながら室温調整を行い配慮している。トイレ等臭いが気になる所には消臭剤を使用し、不快感の軽減に努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、玄関など出来るだけ手すりを設置するなどして一人で歩行等出来るように配慮している。洗面台も車椅子のまま使用出来るようにしている。又風呂場も使い易いように手すりの位置を増やし対応している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者様の昔からの特技、好きなこと等の能力を活かし、かつ楽しみとして行っている。また、入居者に苦にならない程度の役割を与え、自立を促している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内にある庭園、畑、花壇を有効に活用している。庭園では周回コースを散歩し、畑では季節の野菜を育て、収穫して調理し、食している。また花壇においても、毎日水遣りを行い、生活のリズムとしている。		野菜の収穫など近隣住民などのも参加して頂けるように取り組んでいきたい。

グループホーム イコロの里

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム イコロの里

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

イコロの里も2年目となり、1年目ではなかなかできなかった地域とのつながりに力を入れた取り組みを行っている。廃品回収の参加・回覧版の受け渡し・公民館で入所者様の作品の展示予定など民生委員・区長と話し合いをしながら取り組んでいる。